

令和4年10月25日
三島市立中郷小学校
校長 三室 隆

保護者 様

三島市リーフレット「伸ばそう！子どもの学力」について

霜降の候、保護者の皆様におかれましては、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年度小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の三島市の分析結果をもとに、家庭で大切にしてほしいポイントをまとめたリーフレット（データ版）が、三島市教育委員会から届きました。子どもの学びを支えるためには、学校と家庭が連携して、基本的な生活習慣を確立し、学習意欲を高め、家庭学習の習慣化を図ることが大切です。

本校では、自分の考えをもち、分かりやすく説明する力を育むことに重点をおき、取り組んでいきます。

なお、リーフレットにつきましては、子どもたちの1人1台端末のメタモジにデータを配布し、学校ブログにデータを掲載しています。各家庭におきましては、リーフレットをお子様とともにご覧いただき、ご家庭での学習や生活改善に役立てていただきたいと思っております。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、三島市のHPでもリーフレットをご覧いただけます。（公開日10月25日）

問い合わせ先 担当 潮木 るり子 電話 055-977-1052
--

伸ばそう！子どもの学力

三島市教育委員会 令和4年10月発行

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学力や学習・生活状況を把握し、今後の教育活動に役立てていくために、実施されています。令和4年度の三島市の調査結果を分析し、三島の子どもたちのよさや今後伸ばしていきたいところをリーフレットにまとめました。

子どもたちの学力を伸ばしていくためには、学校と家庭が連携して子どもたちの学びを支えることが大切です。学校では、調査結果を活用し授業改善に取り組んでいきますので、各家庭でも、このリーフレットを参考にしていきたいと思います。

調査の概要

【調査日】令和4年4月19日(火)

【調査対象】小学校6年生, 中学校3年生

【調査内容】○ 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

○ 生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

※調査問題につきましては、国立教育政策研究所ホームページ(URL: <http://www.nier.go.jp/>)から確認することができます。

三島の子どもたちのこんなところがすてき！

- 自分には、よいところがあると思っている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている。
- 物事をやり遂げる喜びを知っている。
- ICT機器を頻繁に使用して調べ学習や意見交換ができる。
- 仲間の意見に耳を傾けることができる。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている。

三島の子どもたちの伸ばしたいところ

- 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉にすること。
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守ること。

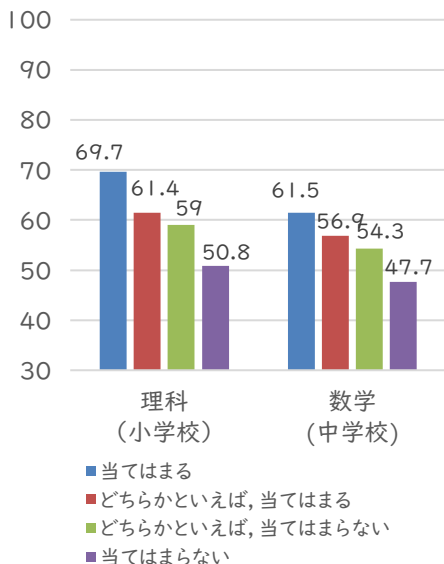
生活・学習習慣と学力の関係は？

次のような子どもたちは、教科の平均正答率が高いことが分かりました。



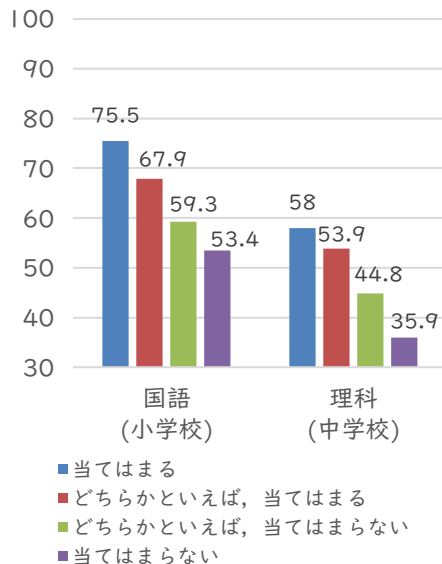
読書が好きな子

「読書は好きですか」の回答と正答率(%)



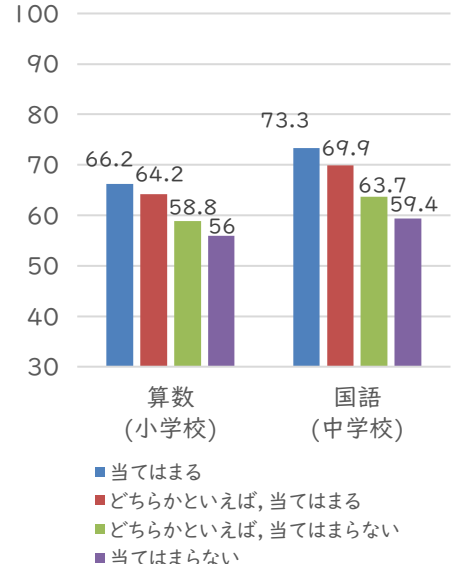
自ら課題を見付け調べ表現する子

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の回答と正答率(%)



話し合いから考えを深めたり広げたりできる子

「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の回答と正答率(%)



家庭での子どもとの対話を大切にしましょう！

こんなところができています

- 【小学校】○ 登場人物の関係性について、描写をもとに読み取ること
- 【中学校】○ 自分が知らない言葉でも前後の文脈から意味を読み取ること

三島の子どもたちの伸ばしたいところ

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける力

ポイント

- ① 【文章2】は、島谷さんの「六年生としてがんばりたいこと」が伝わる文章になっています。【伝え合いの様子の一部】をもとに、【文章2】のよさを見付けましょう。
- ② 見付けたよさを、「自分が島谷さんなら」という立場で文章に書き表しましょう。



【小学校】3
島谷さんの学級では、「六年生としてがんばりたいこと」を書くことにしました。

【文章2】は、島谷さんが書いた文章です。

【文章2】
わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。

そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をろくがして、各学級にしようかいしたそうです。

この話を聞き、五年生の時にさいばい委員会で行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをはんせいしました。わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人もしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいしたいです。

二 島谷さんは、川口さんと【文章2】を読み合い、感想を伝え合いました。次の【伝え合いの様子の一部】をよく読み、あとの問いに答えましょう。

【伝え合いの様子の一部】

島谷さん 私のがんばろうとしていることが伝わるかな。

川口さん 伝わってきたよ。それは、上級生が話してくれたことや委員会ですら活動したことをもとにしているからだね。

島谷さん それはよかった。他に気づいたことはあるかな。

川口さん 最後の段落がいいね。なぜかという、最初の段落の内容をより具体的に書いているから、今年が**がんばろう**として

いることがくわしく伝わってきたよ。

島谷さん ありがとう。自分でもふり返ってみるね。次は、川口さんの文章を読んだ感想を伝えるね。

（伝え合いが続く）

島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことにしました。

あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。

次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 【文章2】のよさを書くこと。
- 【文章2】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

【正答例】

わたしの文章のよさは、今年がんばりたいことを伝えるために、南さんの話や、さいばい委員の活動で反省したことを書いたり、運動委員として進めたい新たな活動を、最後のだん落に具体的に書いたりしたところです。（九十九字）

学校では

- 表現の仕方を考えたり、資料を適切に引用したりして、自分の考えを分かりやすく記述する力を育てます。
- 他教科等においても、自分の書いた文章を読み返したり、そのよさを見つめたりする活動を展開します。

家庭では

- 自分の考えや行動の理由を伝えるようにしましょう。
- 自分の考えの根拠となる情報については、複数の情報を照らし合わせ、信頼性のあるものか確認しましょう。



算数・数学

紙面の都合上、調査問題を省略して示しています。

こんなところできています

【小学校】 ○ 図形の性質を理解し、正しくプログラムすること ○ 乗法の計算をすること

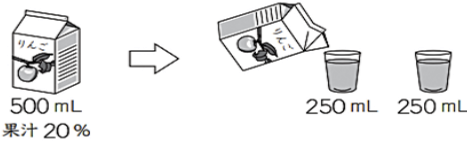
【中学校】 ○ 連立方程式などの基本的な計算問題を解くこと ○ 確率と相対度数の関係性や三角形の合同条件などの知識

三島の子どもたちの伸ばしたいところ 解決の見通し（既習事項の活用）をもつ力

【小学校】 ②(3)

→数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる問題です。

リンゴの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになります。



250mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250mLは、500mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、 ㊦

上の㊦にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

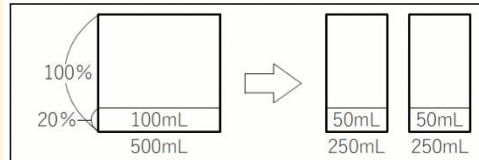


飲み物の量が半分になれば、割合も半分になるね。

でも、割合が半分になったら、濃さがうすくなるってことだよな。本当にそうかな？



飲み物の量が半分になっても、果汁の割合は変わりませんね。(正答は3) このように、生活場面を想定し、実際に具体物を用いたり、図や式に表したりして、解決の見通しをもつことが大切です。



飲み物の量	果汁の量
500mL	100mL
↓ 半分	↓ 半分
250mL	50mL

ポイント!

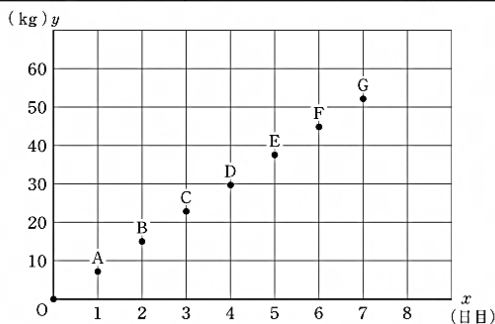
日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるようにすることが大切です。

【中学校】 ⑧(2)

→日常生活や社会の事象を理想化したり、単純化したりして、その特徴を的確に捉え、数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することを求めている問題です。

下の二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、原点Oから点Gまでの点が一直線上にあるとし、このまま同じように取り組みを続け、二酸化炭素削減量の合計が一定の割合で増加すると仮定して考えることにしました。このとき、目標の300kg削減を達成できるのがおよそ何日目になるのかを求める方法を説明しなさい。

x (日目)	0	1	2	3	4	5	6	7
y (kg)	0	7.2	15.2	22.8	29.7	37.8	44.9	52.4



グラフが原点を通る直線になっているから、比例の関係だね。

比例の関係なら、式をたてて $y=300$ のときのxの値を求めればいいよね。



日常生活の中でも、関数の性質を用いて説明をしたり、予想を立てたりすることで、効率よく問題解決につなげることができます。

ポイント!

日常生活にある事象でも関数の性質やグラフを用いて、結果を予想することができます。

学校では

○予想を立てる場面を設定したり、解決までの見通しをもったりする時間を設定するようにします。

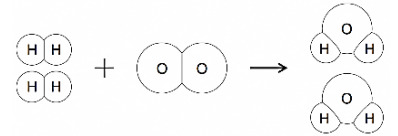
家庭では

○子ども自身が、間違いに気づき、「なぜ?」「どうして?」を大切にしていくなために、答え合わせは子ども自身ができるように声かけをしましょう。

◆ こんなところができています ◆

【小学校】○ 問題を解決するために必要な視点をもって観察すること

【中学校】○ 分子モデルを化学反応式で表すこと



◆ 三島の子どもたちの伸ばしたいところ ◆

自ら問いをもち、その問いの解決のために、仮説を立て実験し、妥当な考えをもつ力

【小学校】2(4)

砂糖水をこおらせた物は、紅茶に入れるとしずみました。

水をこおらせた物は、紅茶にうくの、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

水をこおらせた物

砂糖水をこおらせた物

水を入れても、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

水をこおらせた物

砂糖水をこおらせた物

砂糖水をこおらせた物だから、水にしずんだのかな。砂糖水ではない、ほかの水よう液をこおらせた物でも試してみたいね。

はるとさん

はるとさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけました。はるとさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

【誤答で多かったもの】

・ほかの物をこおらせた水よう液は、どうなるだろうか。

ポイント!

「どうなるだろうか」は明確な表現ではないですね。明確な表現に変えると「ほかの水よう液をこおらせた物は、水にしずむのだろうか。」になります。

・ほかの水よう液をこおらせた物でやってみたい。

ポイント!

これだと何をやってみたいのかということが分かりませんね。やってみたいことを明確にすると、「ミョウバンをとかした水よう液をこおらせた物は、水にしずむのか試してみよう。」になります。

学校では

- 子どもたちの疑問や興味・関心を主軸とした授業を進めていきます。
- 自分で実験を計画し実行するなど、自身で課題を解決していく探究活動を推進していきます。

【中学校】2(3) 飛行機雲のようすを考察する場面

<10月1日 13時>



<10月15日 13時>



山本さん: 日によって、飛行機雲がすぐ消えたり、長く残ったりします。なぜだろう。

山本さん: 飛行機雲は、燃料の燃焼でできた水蒸気が凝結したものです。このことから何が関係していると考えますか。

先生

山本さん: 飛行機雲の残り方は、湿度と関係していると考えます。

飛行機雲を撮影した日時の百葉箱の観測データを調べました。

百葉箱の観測データ			
日時	気温(℃)	湿度(%)	飛行機雲の残り方
10月1日13時	21.5	61	すぐ消えた
10月15日13時	20.3	61	長く残った

中村さん: 私は、このデータから、「湿度は関係していない」と考えます。

中村さんの下線部の考え方に対して、どのように判断することが適切ですか。

- ア 観測データの気温が異なるので、「湿度は関係していない」と言える。
- イ 観測データの湿度が等しいので、「湿度は関係していない」と言える。
- ウ 湿度が異なる他の日を調べないと、「湿度は関係していない」とは言えない。
- エ 飛行機雲の高さの湿度を調べないと、「湿度は関係していない」とは言えない。

【誤答で多かったもの】

イ 観測データの湿度が等しいので、「湿度は関係していない」と言える。

ポイント!

得られた情報が調べたいことと本当に関係しているのか、よく考えることが大切です。(正答)
エ 飛行機雲の高さの湿度を調べないと、「湿度は関係していない」とは言えない。

家庭では

- 子どもが感じたことに共感したり、一緒に考えたりする時間を大切にしましょう。
- インターネットで調べるだけでなく、実際に「見る」「触れる」「作る」などの体験を家庭でも増やしましょう。